宝船展 2019

●会期 2019 年 1 月 16 日(水)～20 日(日)　●会場　埼玉県立近代美術館 地階一般展示室

「クシャモゾ・オノマトペ」

加藤典子　神尾真弓　映像制作：橘敏輝

参加型インスタレーション作品　2018～2019 制作　作家蔵

出品番号 7

ギュッギュッ	雪
ザクザク	霜柱
パリパリ	氷
パキパキ	ドングリ
キシキシ	イス
ワシャワシャ	紙

つかむ、踏む、つぶす、ゆらす、丸める…
身体で奏でる音色とリズム…。様々な情景がよみがえる。
ふとした場所で見つけたひそやかな音、感触にときめいたあの幼いころ。
日常に潜む非日常から楽しさを発見する才能は、
生まれた時から全ての人が持っていた。

あの楽しさと最後に会ったのはいつだっけ？……

※「オノマトペ」には『擬音語』と『擬態語』がある。
『擬音語』とは物が発する音や声を真似て字句で描写した語句のこと。
「サラサラ」「ワンワン」「ガシャーン」など。
『擬態語』とは状態や心情などを表した言葉のこと。
「ドキドキ」「ニコニコ」「キラキラ」など。

■参加型インスタレーション内容

床に直接、クシャクシャと大まかにつぶした大量の紙を山のように積み上げておく。
紙の山は 6 畳ほどの大きさの紙を何枚も使用して形作る。使用した紙は模造紙を 9 枚ずつ繋ぎ合わせたものを 37 枚用意した。模造紙の合計は 333 枚。

参加者は手や足を使って好きなように紙の山を押しつぶしたり、ひねったり曲げたり、尖らせたり凹ませたりしながら、その時に発生する音を楽しみつつ、自由に紙の塊を変形させていく。変化する紙の彫刻とも言える。ただし、紙はやぶかないこと。
そうやって楽しんだ後、参加者はつぶした時刻、発生した音がどう聞こえたかを言葉にして、手を加えた紙の部分に書き込んでもらう。
小さな子どもは紙と戯れるだけでもよい。

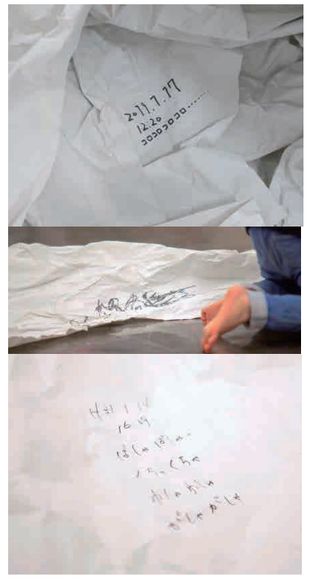
徐々に作品は縮んで、参加者の感じ取った「オノマトペ」がたくさん書き込まれているというのが最終形態となる。作品の変化を、映像作品としてアーカイブする。
アーカイブ映像は 6 月 YouTube で公開予定。【検索ワード】クシャモゾ・オノマトペ

「クシャモゾ・オノマトペ」

加藤典子　神尾真弓　映像制作：橘敏輝

参加型インスタレーション作品　2018～2019 制作　作家蔵


開始








最終